

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター心愛つう		
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年10月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 42
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年10月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年12月5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	24	(回答数) 24
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に合わせて、訪問先での支援をしていただいている。	それぞれの利用者に沿って、訪問先での支援について、園と連携をして支援をしています。	訪問先での担任、支援員、園長さんを含めて、支援内容についてしっかり確認をして、訪問支援を取り組んでいきたい。
2	通所施設からの送迎時、連絡表、LINE、電話などで連絡をもらったり、園の先生から報告があり訪問の支援がされている。	できるだけ、訪問が済んだ後などに保護者に伝えるようにしている。	全員の利用者に速やかに訪問支援の報告がされてるわけではないので、訪問日よりなども活用したり、次年度からは訪問支援の面談もしっかり計画的に取り入れていきたい。
3	こどもへの支援内容が具体的で分かりやすく、参考にさせていただいています。・園の様子を見ていただく中で、見落としていた部分について、アドバイスをいただき手厚い支援ができました。	療育施設を利用している利用者さんもいらしゃる、その情報も園へ伝えながら、情報共有をし、支援に役立ててきた。	次年度も、今年度同様、利用者さんについての情報共有をおこない支援に役立てていきたい。より具体的な支援での教材などについても情報共有をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」を踏まえながら支援をされているか説明を受けてないので、分からない。また、教材教具が整えられているのかを知らない。	ガイドラインについて保護者への周知ができなかった。保育所等訪問支援で何を支援していくのか、保護者へしっかり伝えていく。「ガイドライン」と言う言葉が、保護者にとって分かりにくかったのではないと思われる。訪問時の教材教具については、保護者へ伝えていない。	訪問支援の具体的内容については、面談等での保護者との確認をして、支援をしていきたい。
2	面談で、園の様子を伝えられるが、保育所等訪問をした後で、「こんな様子でしたよ」と、伝えてほしい。	訪問での様子を、保護者にどんな様子であったかを伝えられていない。保護者と接点がある時に園での様子を伝えるようにはしているが、十分ではない。	全員の利用者に速やかに訪問支援の報告がされてるわけではないので、訪問日よりなども活用したり、次年度からは訪問支援の面談もしっかり計画的に取り入れていきたい。
3	保育所等訪問支援をしていただけることは、園としてありがたいが、面談等の時間が持てなかったり、職員が手薄の時などは、短時間で訪問を計画して欲しい。訪問にこだわらず、電話での対応などでもしてほしい。	訪問席への訪問は、双方で都合の良い日を選び決めていたが、訪問先の園の現状については、知らないことが多く、訪問支援がされていた。	訪問日の決定だけでなく、計画であっても、受け入れ園の状況に沿って支援がされるよう、状況によっては園から伝えていただけるような関係性を持って、訪問支援を計画していきたい。